令和４年８月２１日

菊花展出品を目指したダルマ・福助作りの実践講座（第３回）

最高気温が続き茎葉の伸びが停滞していましたが、お盆を過ぎてから涼しくなってきたので、皆さんのダルマ・福助苗は、順調に成長していると思います。

今週から涼しくなりましたので停滞していた新芽は、スイッチが入ったように急激に伸びますので、毎日見るたびに草丈や葉が大きくなっていくのがわかります。
第３回目は、昨年と同様に、葉を大きくし苗を充実させる『追い込み』と、開花時期を操作する『シェード』を勉強していきます。

１　追い込みによる肥培

菊の育成テクニックのひとつです。一般的な菊の参考書には書かれていませんが、巨大な花を咲かせるためには必要です。お盆明けの涼しくなってきたころから液肥を１日おきに与えて茎葉を大きくしていきます。肥料をたくさん与えることから『追込み』と言われています。

（１）追込み

液肥１０００倍を１日おきに、８月２０日頃から９月１５日頃まで与える。
１０００倍液肥を与える方法は、失敗が少なく安全な追込み方法ですが、９月に入ってから５００倍濃度に変えてより強力に追い込む方法や、９月に入ってからは PK 液肥に変える方法もあります。
自分の菊の状態によりますが、弱々しい苗には薄め少な目に、苗が充実しているのは濃い目を多めに与えるのがよいと思います。

（２）どぶ浸け

根が回ってくると、水のバイパスのような抜け道ができていて、毎日水遣りをしていても、抜け道ばっかりに水が瞬時に流れて、水が行き届かない部分があります。
この部分には、たくさん水を与えても、湿ることはありません。
当然、水が行き届かなければ液肥も届かないので、追込みをしても効率が良くありません。

液肥に３分間浸ける。

これを解消するために『どぶ浸け』を行います。方法は、バケツに液肥１０００倍を入れて、福助鉢をドボンと３分間浸けるだけです。
浸け終わったあとは、鉢内の余剰した水分を抜くためにしばらく鉢を傾けます。

鉢を傾けて、余剰した水を抜く。

（３）葉面散布

液肥を根にやるだけが追込みの方法ではありません。菊の葉にも養分を吸い取ることができます。特に葉の裏側は、表側よりたくさん吸い取ることが可能と言われています。液肥をスプレーで葉をめくりながら裏側にシュッとかけていくだけで、じんわりと葉が大きくなっていきます。

窒素系の肥料（普通の液肥 500 倍、ヨウゲン強力２号500 倍、尿素 1000 倍）などの葉面散布を多用すれば、土の中に窒素が残留する心配もありません。

上位の名人たちは、みんな葉面散布を実施しています。

２　シェード処理

菊は、短日性（昼間が短くなると蕾をつける）植物なので、自然の状態ならば、早咲きなら１１月１日前後、中咲きなら１１月４日頃に満開となりますが、都内で栽培している場合は、街路灯などで夜が明るいため、蕾に多少なりとも影響があり、少し遅くなりがちです。また、近年は猛暑の影響で、さらに開花が遅れています。

湯島天神の福助審査日は１１月５日で、審査日に確実に満開に近い状態で咲かせないとトップ争いは難しくなります。

シェード処理とは、人工的に光を遮って夜を長くし、秋を感じさせて蕾をつけさせ、審査日に開花を合わせる技術です。

一般的な参考書では、『８月末タイプ』として、８月２５日前後から蕾が確認できるまで約２週間、暗幕で３時間暗くすることになっておりますが、上村先生は、９月に入って蕾が付いてからシェードする『９月タイプ』をおススメしています。

しかし、猛暑の影響などで蕾の付く日が遅れてしまったときは、『９月タイプ』で実施しても、着蕾の遅れた時間までを早めることはできませんので、確実に開花を早めるのであれば『８月末タイプ』しかありません。

シェードは必ずしなければならないものではありません。しかし、着蕾以降の菊は光に敏感であるので、栽培場所の前に街路灯やマンションからの採光がある場合は、確実に開花が遅れ、花の形も悪くなります。

この時期のシェード以外にも、開花までの間はスダレや遮光ネットなどで夜間の余計な光を遮光してあげると、きれいな花が咲きます。

（１）８月末タイプのシェード

８月２５日頃から９月上旬の蕾を確認するまで行うシェード。

確実な方法であるが、夜間が高温であると効果はなくなると言われている。

また、一日でもシェードを忘れてしまうと、今までの作業が無効となる。

毎日、定刻に確実にシェードができる人向けです。

（２）９月タイプのシェード（上村先生のお勧め）

小さな蕾が確認できた９月１０日頃から行うシェード。蕾の大きさが１mm のときにシェードをすると、シェードした日数だけ早くなる。シェードを忘れたり途中でやめても、やった分だけ効果がある。

１日シェードすると開花が１日早まるそうです。

蕾が５mm を超えると効果が無くなりますので、９月に入ったら蕾の状況を常に把握します。

シェードするための道具は、管理している鉢が少量であれば、段ボール箱を用意するだけで十分です。時間になったら鉢を段ボール箱ですっぽり被せ、時間になったら箱を取るだけです。

（３）シェードする時間

① 夕方タイプ

午後３時からダンボールをかぶせ、暗くなったら取り、朝を迎える。
一日中、菊の面倒を見ることができる人。勤め人には無理。

② 朝夕タイプ

午後６時にダンボールをかぶせ、かぶせたまま朝７時にはずす。
勤め人には最適。

③ 朝タイプ

暗くなったらダンボールをかぶせ、朝８時にはずす。
一番楽だが、早朝出勤する人には無理。

- 街路灯の影響を受けず、夜が暗い（新聞を読めない程度）栽培環境であれば、国華越山、国華金山ならシェードをしなくても、審査日に間に合います。
- ８月タイプのシェードは一日でもやらない日があるとリセットされ、その日からの再スタートになるが、９月タイプからの蕾シェードは、途中でやめてもやった分だけ効果がある。
- 実際にはシェードでピタリと開花日を合わせることはほとんど無理ですが、毎年、開花が遅いと感じている人はやったほうが良い。
- 初心者は、今年はシェードなしで咲かせてみて１１月の開花状況を確認して、自分の栽培環境がどうなのか（遅くなる傾向なのか）確かめることが大切です。
- ９月タイプのシェードを行うにしても、蕾が９月上旬に付いていなければ、開花が確実に遅れてしまうので、８月タイプのシェードのほうが安心です。

３　今後の管理

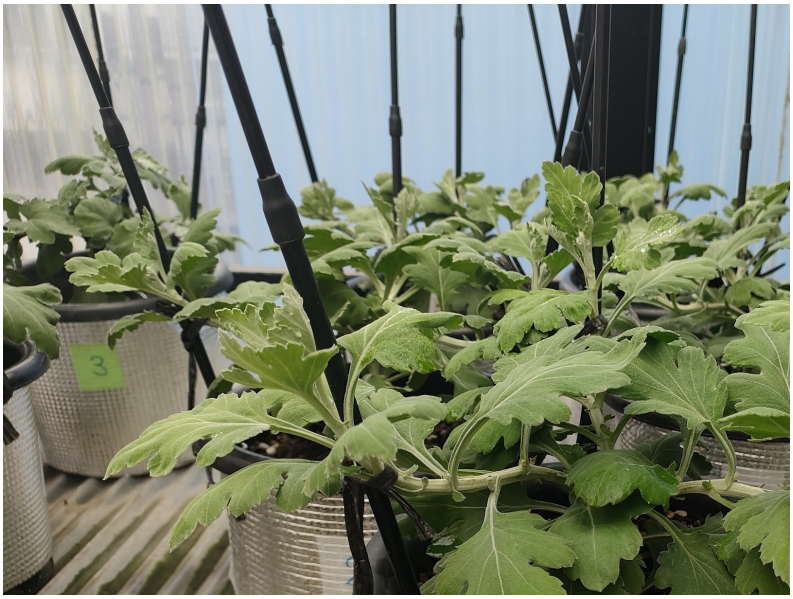
暑さも和らいできているので、水のやり過ぎによる根腐れの心配はないと思います。逆に、水切れになって萎れる可能性のほうが高くなりますので、毎朝鉢を持って鉢の重さ（水の量）確認しましょう。

今後の管理スケジュール案（ダルマ・福助共通）

８月２２日　液肥１０００倍散布
８月２４日　液肥１０００倍散布、夕方に液肥 500 倍を葉面散布
８月２６日　液肥１０００倍散布
８月２８日　液肥１０００倍散布、夕方に液肥 500 倍を葉面散布
　　Ｂナイン３００倍散布（前回から２週間後）
　　乾燥肥料（止め肥）、増し土（５㎜厚程度）
８月３０日　液肥１０００倍散布、夕方に液肥 500 倍を葉面散布
９月　１日　液肥１０００倍散布、
９月　３日　液肥１０００倍散布、夕方に液肥 500 倍を葉面散布
９月　５日　液肥１０００倍灌水
９月　７日　液肥１０００倍散布、夕方に液肥 500 倍を葉面散布
９月　９日　つぼみの兆候が見える頃です。芽先を観察してみましょう。
９月１１日　第４回講習会

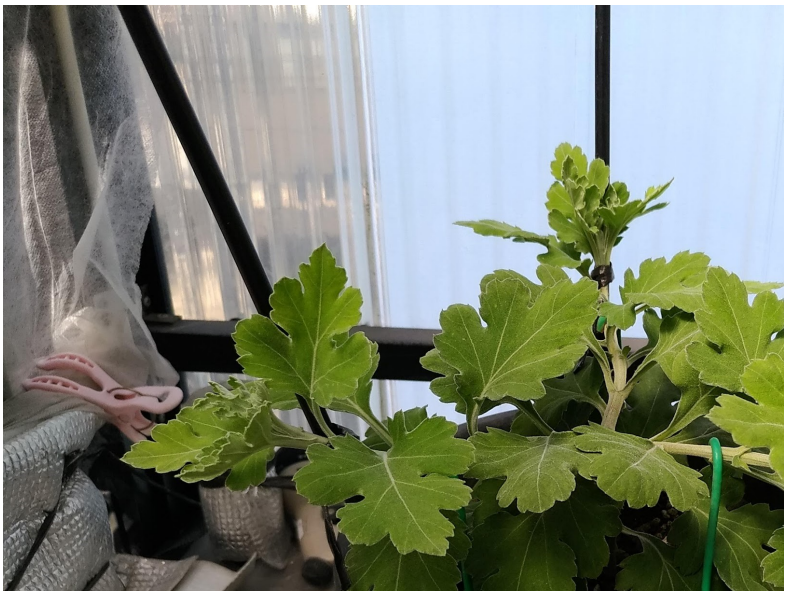
・毎日、鉢を 120 度ずつ回して、全ての葉に陽が均等に当るようにする。この時に鉢を手に持って水の重さを確認する。乾いていれば水か液肥を与える。

・８月２５日以降から出品時期までは、夜に照明をつけて菊の世話をしないように心がけてください。この時期は花芽分化（蕾をつくる）をするので、夜に照明を使うと花芽分化の時期が狂ってしまい、蕾に影響が出てしまいます。
また、蕾が付いた後も、夜間照明の影響によって蕾が消滅することもあります。



令和４年８月２０日現在の状況

・猛暑で茎葉が伸びない状況は、平成３０年度と同じです。
しかし、平成３０年度は、お盆明けから急に涼しくなったので、着蕾は９月６日でした。（８月２５日夜からシェード）
この時は、国華金山が１１月５日に満開でした。


平成３０年８月１９日の菊の状況